

JETRO

# バングラデシュ・インド北東州連結性に関する調査

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部・ダッカ事務所

2025年3月



アカウラ国境インド側トリプラ州アガルタラ（ジェトロ撮影）

# 目次

I.	調査内容	3
II.	Bangladesh からインド北東州に 輸出されている品目調査	5
III.	インド北東州から Bangladesh に 輸入されている品目調査	10
IV.	Bangladesh からインド北東州に 輸出している企業の事例調査	14
V.	Bangladesh からインド北東州に 進出している企業の事例調査	24
VI.	インド・ Bangladesh 商工会議所など 関連業界団体や国際機関への調査	27
VII.	Bangladesh の陸港の詳細	33
VIII.	Bangladesh とインド北東州間の貿易概要	42
IX.	Bangladesh からインドへの輸出における 課題と今後の見通し	45
X.	Bangladesh とインドを含む地域貿易協定	48

# I. 調査内容

# 1 | 調査内容

## 背景

地域全体の平和と繁栄を保障するために「自由で開かれたインド太平洋」が重要である中、日本はバングラデシュ南部のマタバリ深海港の開発を支援している。また、バングラデシュ、インド、日本の3カ国は、「北東州知的対話（インド太平洋における印北東部・バングラデシュ・ベンガル湾協力とその未来）」と呼ばれる会合で、インド北東州とのコネクティビティ（連結性）を改善する方法を模索している。バングラデシュとインドの北東州間の経済活動はすでに機能しているものの、さらにコネクティビティを改善するためには地理的障壁や産業の状況の違いなどの克服、具体的には道路や港などのインフラ整備と制度的システム（貿易協定など）の両方を改善することが重要である。どう課題があるにも関わらず、本レポートでは、これら2つの地域間の現在のつながりと将来の可能性を探ることとする。

## 対象範囲

本調査では、バングラデシュとインド北東州の間における現在の貿易および投資状況を理解し、主要な課題を特定し、経済協力を改善する方法を探ることを目的とする。

（注）インド北東州はアルナーチャル・プラデシュ州、マニプール州、アッサム州、メガラヤ州、ミゾラム州、シッキム州、トリプラ州、ナガランド州

## 方法論

バングラデシュとインド北東州の間における現在の輸出入慣行、課題、政府政策、将来の見通しを把握するために、14の企業、5つの協会、4つの陸港に対してインタビューを実施した。

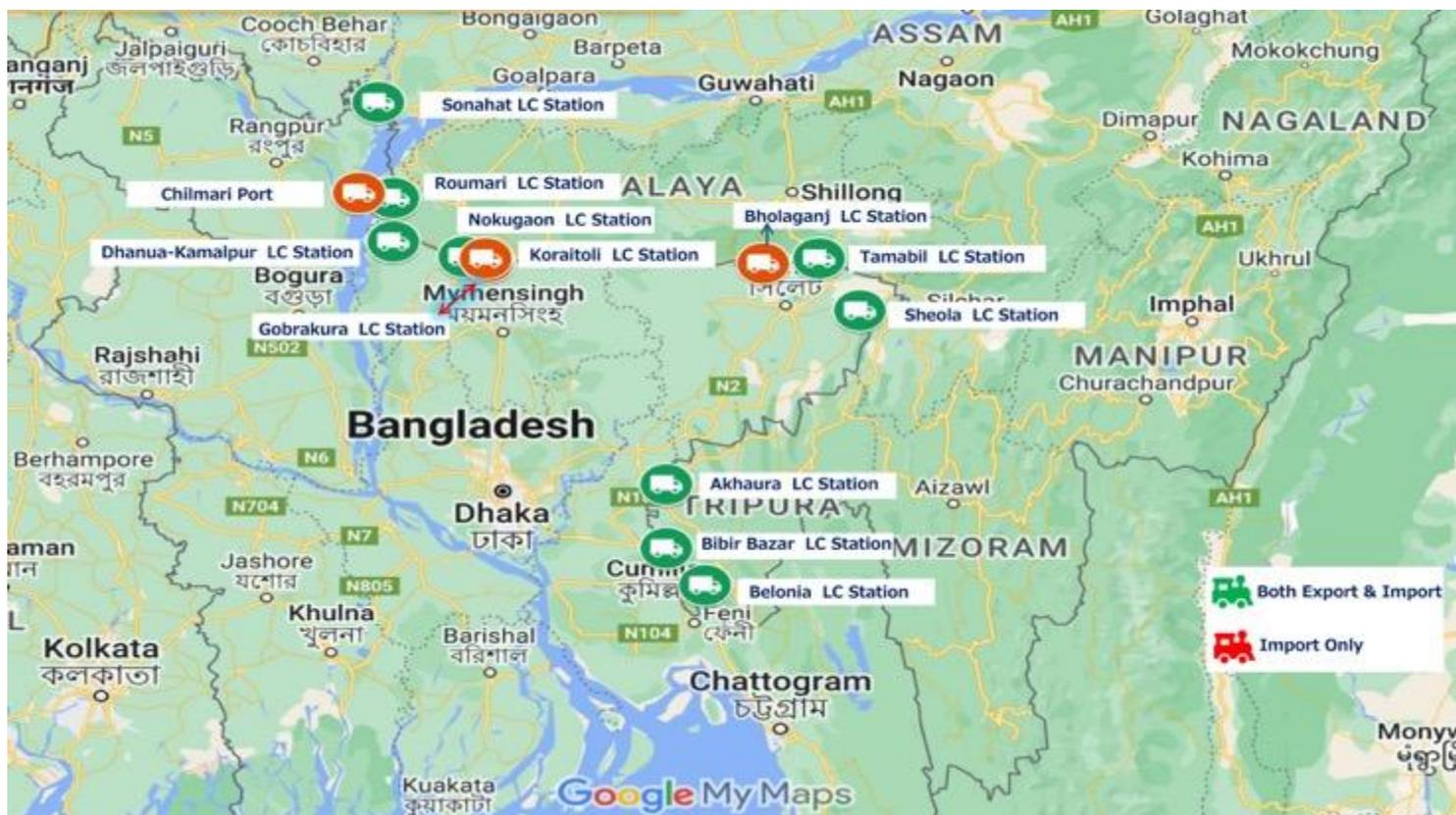
種類	インタビュー数	企業名・組織名
企業	14	Pran Dairy、Habiganj Agro、RFL Plastics、Durable Plastic、Banga Building、Partex Tissue、Crown Cement、Walton、Bangladesh Steel Re-Rolling Mills(BSRM)、Akij Plastics、Hashem Foods、Rangs Electronics、Nasir Float Glass Industries(NFGIL)、NPOLYMER
協会	5	バングラデシュ・プラスチック製品製造・輸出業者協会（BPGMEA）、輸出促進庁（EPB）、バングラデシュ農産物加工業者協会（BAPA）、シレット商工会議所（SCCI）、インド・バングラデシュ商工会議所（IBCCI）
陸港	4	タマビル陸港、アカウラ陸港、シェオラ陸港、ボラゴンジ陸港

## Ⅱ. バングラデシュからインド北東州に 輸出されている品目調査

# 1 | 両国の陸港の位置関係

- 2021～2023年のデータによると、バングラデシュとインド北東州を結ぶ陸港は13カ所あり、そのうち9カ所は、輸出と輸入の両方に使用されている。

バングラデシュとインド北東州を結ぶ陸港の位置



(出所) Googleマップを基にジェトロ作成

## 2 | 陸港別輸出額

- バングラデシュとインド北東州を結ぶ陸路を通じて輸出された製品の過去3年間の総額は、約1億1,126万ドルである。そのうち、アカウラ陸上税関施設（Akhaura LC Station）からの輸出が最も多く、同社の過去3年間の輸出総額は、3,926万ドルである。

陸港別輸出額（100万ドル）

番号	陸路名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
1	Akhaura LC Station	15.82	11.97	11.47	39.26
2	Belonia LC Station	0.00	3.61	7.44	11.05
3	Bibir Bazar LC Station	1.40	5.48	6.92	13.80
4	Dhanua Kamalpur LC Station	0.03	0.02	0.02	0.07
5	Nakugaon LC Station	0.00	0.00	0.01	0.01
6	Roumari LC Station	0.00	0.00	1.56	1.56
7	Sheola LC Station	0.00	16.73	19.58	36.30
8	Sonahat LC Station	0.58	2.70	3.80	7.07
9	Tamabil LC Station	0.00	1.06	1.08	2.14

（出所） ジェトロ調べ

### 3 | HSコード別輸出額

- バングラデシュは、過去3年間にインド北東州にさまざまな商品を輸出している。陸路による輸出品目は15種類のHSコードに分類され、最も多く輸出されている品目はポルトランドセメントである。

HSコード別輸出額（100万ドル）

HSコード	製品名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
25232900	ポルトランドセメント（Portland cement） （白色セメントを除く）	4.02	10.29	15.40	29.7
22029900	水、ミネラルウォーター、炭酸水など （アルコールを除く）	0.07	7.89	6.79	14.8
39249090	家庭用品、トイレタリー用品	1.37	3.47	5.26	10.1
03055990	干し魚	5.71	4.06	5.20	15.0
94037000	家具、プラスチック製家具（椅子を除く）	0.75	3.25	4.03	8.0
19054000	ラスクなどのトースト製品	0.28	3.13	3.90	7.3
39041000	PVC（ポリ塩化ビニール）樹脂	0.14	2.03	3.88	6.1
52029990	綿の廃棄物	0.87	2.00	3.51	6.4
39252000	ドア、窓、フレーム	0.26	1.38	1.40	3.0
72142000	鉄/鋼棒、熱間圧延鉄板、ツイスト鉄など	2.78	1.77	0.60	5.1
11052000	じゃがいもフレーク、顆粒、ペレット	0.58	0.68	0.53	1.8
70051000	フロート/研磨/磨きガラスなどのシート （ワイヤーなし、未加工）	0.26	0.77	0.45	1.5
39229000	バス用衛生用品、PVC継手	0.48	0.41	0.39	1.3
25171090	石、砕石	0.25	0.25	0.30	0.8
48030000	トイレットペーパー、ティッシュペーパー、タオル、 ナプキンストック、類似のロール紙	0.02	0.20	0.22	0.4

（出所）ジェトロ調べ

## 4 | 企業別輸出額

- 過去3年間で、合計143社のバングラデシュ企業がインド北東州に製品を輸出しており、そのうち**上位15社が、総輸出額の72%以上を占めている。**

企業別輸出額（100万ドル）

番号	企業名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
1	Crown Cement Plc. (旧M.I. Cement Factory Ltd.)	0.81	3.74	5.57	10.1
2	M/S Shoyeb Trade International	3.26	2.26	2.69	8.2
3	Premier Cement Mills Plc	0.96	2.10	3.77	6.8
4	Durable Plastic Ltd.	0.63	2.36	3.23	6.2
5	Meghna Pvc Limited	0.00	2.03	3.88	5.9
6	Habiganj Agro Limited	0.59	2.31	2.86	5.8
7	Banga Building Materials Limited	1.04	2.20	2.16	5.4
8	M/S Khariala Enterprise	2.35	1.07	1.73	5.2
9	BSRM Steels Limited	2.78	1.77	0.51	5.1
10	Pran Dairy Limited	0.11	2.05	2.34	4.5
11	Seven Circle (Bangladesh) Ltd.	0.90	1.21	1.58	3.7
12	Mymensingh Agro Limited	0.02	2.49	1.15	3.7
13	Hashem Foods Limited	0.03	1.65	1.80	3.5
14	National Fittings And Accessories	0.42	1.21	1.72	3.3
15	Akij Plastics Limited	0.00	1.03	1.72	2.8

(出所) ジェトロ調べ

## Ⅲ. インド北東州からバングラデシュに 輸入されている品目調査

# 1 | 陸港別輸入額

- バングラデシュは過去3年間に、バングラデシュとインド北東州を結ぶ陸路を通じて輸入した商品の総額は、約1億4,984万ドルである。そのうち、**タマビル陸上税関施設 (Tamabil LC Station) からの輸入が最も多く、過去3年間の輸入総額は4,835万ドルである。**

陸港別輸入額 (100万ドル)

番号	陸路名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
1	Tamabil LC Station	19.56	19.84	8.95	48.35
2	Sonahat LC Station	7.08	25.32	8.78	41.18
3	Sheola LC Station	3.35	16.61	7.54	27.50
4	Bholaganj LC Station	0.27	11.37	4.70	16.34
5	Dhanua Kamalpur LC Station	2.12	2.33	0.21	4.65
6	Roumari LC Station	-	-	0.93	0.93
7	Gobrakura LC Station	-	5.36	0.06	5.42
8	Karaitoli LC Station	-	3.16	0.06	3.22
9	Akhaura LC Station	-	0.56	0.03	0.59
10	Belonia LC Station	-	0.00	-	0.00
11	Bibir Bazar LC Station	-	0.00	-	0.00
12	Chilmari LC Station	-	-	0.02	0.02
13	Nakugaon LC Station	0.26	1.36	0.00	1.63

(出所) ジェトロ調べ

## 2 | HSコード別輸入額

- 過去3年間に、インド北東州から輸入された製品は、4種類のHSコードに分類される。石灰岩、岩、石炭、砕石が輸入されており、インフラ関連事業や産業部門に不可欠な原材料の重要性を浮き彫りにしている。
- 過去3年間で、最も多く輸入された品目は石灰岩である。

### HSコード別輸入額（100万ドル）

HSコード	製品名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
25210091	石灰岩	13.81	35.77	16.05	65.62
25169010	岩	14.51	19.05	9.63	43.19
27011900	石炭	4.31	30.51	5.58	40.39
25171090	砕石	0.02	0.58	0.03	0.63

(出所) ジェトロ調べ

### 3 | 企業別輸入額

- 輸入製品を輸入業者別で見ると、上位8社が輸入量全体に占める割合はわずか8.25%である。インド北東州からバングラデシュへの輸入市場は、その他の1,800社を超える貿易業者により、非常に細分化されていることを示している。

企業別輸入額（100万ドル）

番号	企業名	2021/2022年度	2022/2023年度	2023/2024年度	累計
1	M/S Raju Enterprise	1.70	0.71	-	2.41
2	J.F Enterprise	0.06	1.68	0.44	2.18
3	M/S. Nazmul & Brothers	0.56	0.65	0.62	1.84
4	Rumana Traders	0.27	0.63	0.34	1.24
5	M/S. Tazin Enterprise	0.12	0.54	0.56	1.23
6	Md. Altab Mahmud	-	0.62	0.56	1.18
7	M/S Bhai Bhai Traders	0.35	0.63	0.18	1.15
8	M/S Sami Enterprise	0.42	0.70	0.02	1.13

(出所) ジェトロ調べ

## IV. バングラデシュからインド北東州に 輸出している企業の事例調査

# 1 | ウォルトン (Walton)



## インド北東州における同社のビジネス状況（輸出）

### ■ 会社概要・事業概要

ウォルトンは、高品質な製品で知られるバングラデシュの大手電子機器・家電メーカーで、2014年頃からインド北東州への輸出を開始。現在は、冷蔵庫（人気商品）とファン（天井用扇風機）のみをインド北東州に輸出している。ウォルトンは、LG、サムスン電子、ハイアール、ゴドレジ、ワールプールなどのブランドに次いで6位（市場シェア5%～6%）で、主に2月～7月と10月～12月にかけて、インド北東州に輸出している。

インド北東州への 輸出製品	年間輸出台数
冷蔵庫	3万台
ファン	10万台

（出所）ジェトロ調べ

### ■ 流通チャネル

ウォルトンは、インド北東州の輸入・販売業者に直接製品を販売しており、輸入業者と販売業者の両方の役割を果たす23名の個人事業主と提携している。ウォルトンは、ガジプール県チャンドラ地区に工場を構えており、そこから完成品を直接陸港に輸送し、輸入・販売業者に届けられ、その後、インド北東州全体に配送される。ウォルトンが利用している主な陸港は、アカウラ陸港とカリムガンジ陸港である。

### ■ 課題

ウォルトンは、インドに製品を輸出するために必要な証明書（BIS、BEE、RoHS、EPRなど）を取得しているが、インド標準規格局（BIS：Bureau of Indian Standards）認証の更新可否について懸念されている。BIS認証は、完成品だけでなく部品に対しても取得する必要があるため、毎年の更新が必須である。現在、ウォルトンは冷蔵庫とファンのBIS認証を取得しているため、インド北東州への製品の輸出が可能だが、更新の保証がないため、インド向け輸出の今後の見通しが不透明である。

### ■ 今後の見通し

ウォルトンは、将来的なインド北東州への製品輸出について悲観的ではあり、中東、アフリカ、ウズベキスタン、カザフスタンへの輸出の拡大を計画している。また、同社は半導体事業関係の投資家との連携を模索している。

### ■ インドへの投資

ウォルトンへのインタビューによると、現段階で、インド北東州への投資計画はない。同社は、工場やその他のベンチャーの設立を含め、インド北東州は、ビジネス環境が厳しいと考えている。

## 2 | パーテックス・ティッシュ (Partex Tissue)



### インド北東州における同社のビジネス状況（輸出）

#### ■ 会社概要・事業概要

バングラデシュの大手ティッシュメーカーであるパーテックス・ティッシュは、2023年からインドへの製品輸出を開始し、これまでに、インド北東州のアッサム州にティッシュを輸出している。輸出されたティッシュロールは、インドの現地販売業者によってフェイシャルなどのティッシュ製品に加工されている。パーテックス・ティッシュの主な輸出先は、インド（デリー、チェンナイ、インド北東州）、ネパール、アラブ首長国連邦、南アフリカである。パーテックス・ティッシュは、インドへの製品輸出で南アジア自由貿易地域（SAFTA）の恩恵を受けている。現在、パーテックス・ティッシュの従業員は、本社と工場を合わせて約200～250名にのぼる。

#### ■ 現在の流通経路

パーテックス・ティッシュは、ナラヤンゴンジ州ブルタ地区に工場を構え、ビーンポール陸港やショナハット陸港を經由して、インド国内の輸入業社5社に直接輸出している。インド北東州の輸入業者は、NINARISA Commerce and Industries（アッサム州グワハティ地区）で、パーテックス・ティッシュから直接製品を受け取っている。これまでに、同社からアッサム州に輸出された製品は、約60～70トンである。

#### ■ 課題

バングラデシュの2024年8月の政権交代により、インドへの輸出が以前よりも厳しくなっている。多くの場合、インドは貿易の国際基準に従わずにバングラデシュとの貿易を行っており、これは珍しいことではない。インド北東州の消費者は価格に敏感であり、より安価な代替品を好むことが多いため、価格設定も大きな課題となっており、Century and Orient（インド）やBashundhara（バングラデシュ）などの大手企業との厳しい競争が常にある。

#### ■ 今後の見通し

これらの課題にも関わらず、パーテックス・ティッシュは、インド北東州での事業展開に楽観的である。最近、同社はインドから400トンのティッシュを受注した。また、同社は、生理用ナプキン、おむつ、梱包用品など、製品ラインを多様化することを計画しており、同社の工場拡張のための投資を求めている。

# 3 | クラウン・セメント (Crown Cement)



## インド北東州における同社のビジネス状況 (輸出)

### ■ 会社概要・事業概要

バングラデシュの大手セメント製造業者であるクラウン・セメント (旧M.I背民都ファクトリー) は、2004年からインド北東州に輸出している。同社は、インド標準規格局 (BIS) の認証を受けたポルトランドセメント (OPC) 「43グレード」を専門としており、トリプラ州、アッサム州、メガラヤ州などに輸出している。インド北東州での同社の市場シェアは、約15%～20%である。

インドにおけるクラウン・セメントの主な競合相手は、Star Cementや、Dalmia Cement、TOPCEM Cement、Black Tigerなどが挙げられる。インドにセメントを輸出しているバングラデシュ企業は、Bashundhara、Fresh、Seven Ringsなど約10社あり、クラウン・セメントは、バングラデシュ産セメント全体の約50%をインド北東州に輸出している。

### ■ 現在の流通経路

クラウン・セメントは、バングラデシュとトリプラ州を結ぶアカウラ陸港を含む、いくつかの陸港を通じて製品を輸出している。インド北東州の輸入業者が注文を受けて、通常約12時間以内に輸入業者に直接輸出され、インド国内の目的地に届けられるため、迅速な対応が求められている。また、雨期には物流上の問題と需要の低下により、輸出が減少する傾向がある。

### ■ 課題

クラウン・セメントは、インドへの輸出業務でほとんど課題に直面しておらず、セメントは効率的に輸送されていた。しかし、2024年8月のバングラデシュの政変により最近ではビジネスが鈍化しており、規制の変更や政治情勢により、インドへの輸出が妨げられることが増えている。

### ■ 今後の見通し

今後、クラウン・セメントは、輸出をさらに拡大することを目指しており、生産量を増やし、物流上の課題を軽減するために、インド北東州に工場を設立することを強く望んでいる。土地取得の問題や国境を越えた規制上の障害により、この拡張は困難であるが、クラウン・セメントは、インド市場での成長に注力し続けている。

### インド北東州への輸出製品

### 年間輸出量

普通ポルトランドセメント (OPC) 43グレード

約1万トン

(出所) ジェトロ調べ

## 4 | アキジ・プラスチック (Akij Plastics)



### インド北東州における同社のビジネス状況（輸出）

#### ■ 会社概要・事業概要

アキジ・プラスチックは国内での知名度が高く、急成長を遂げているプラスチック関連企業である。高品質の家庭用プラスチック製品を専門とし、スツール、テーブル、椅子、ベビー用歩行器、弁当箱、洗濯用カゴ、ゴミ箱、バケツ、容器など、さまざまな製品を製造している。同社の年間生産能力は1,000万個で、インド北東州にのみ輸出している。

インド北東州への輸出製品	年間輸出総額
プラスチックパイプ、 家庭用プラスチック製品	約20万ドル

(出所) ジェトロ調べ

#### ■ 現在の流通チャネル

アキジ・プラスチックは、バングラデシュ国内に2つの工場（シレット県、マイメンシン県）を運営しており、国内市場と海外輸出のどちらにも対応している。同社はインド北東州に輸出するため、製品の出荷に2つの陸港（チャンドラカント陸港、シェオラ陸港）を使用しており、商品の通関手続き後、インドの輸入業者が直接製品を引き取り、各地域への配送を迅速に行なっている。

#### ■ 課題

アキジ・プラスチックの主な課題は、完成品としてのプラスチック製品に、インド標準規格局（BIS）からの認証が必要であり、認証プロセスには、同社役員がインドを頻繁に訪問することが必要な点である。さらに、認証は毎年更新する必要があるため、更新される保証がなく、不確実性と運用リスクにつながっている。また、インド北東州の市場動向は、低品質でより安価な製品が人気なため、アキジ・プラスチックの高価格・高品質の製品は受け入れにくいと考えられる。

#### ■ 今後の見通し

アキジ・プラスチックは、インド北東州への輸出に苦戦しており、インド北東州に工場を設立する計画は当面無い。しかし、輸出事業は拡大する意向で、品質に対する評判を生かして、欧州や世界各国への輸出の可能性を高めるために、バングラデシュの設備等に対する外国投資を歓迎している。

# 5 | ナシルフロートガラスインダストリーズ (Nasir Float Glass Industries)



## インド北東州における同社のビジネス状況（輸出）

### ■ 会社概要・事業概要

ナシルフロートガラスは、優れた透明度と均一性を備えたガラス製品を提供する高品質の板ガラス製造会社である。透明、着色、反射、ラミネート加工を施したガラスを、建設、自動車、家具、太陽光発電産業に提供している。耐久性に定評があり、インドを含む国内外で人気を高め、2019年からインド北東州にガラスの輸出を開始。しかし、インド北東州市場で定評のあるブランド（Asahi、Saint Gobain、Gold Plusなど）との競争に直面しており、同社の市場シェアは5%未満に留まる。

インド北東州への輸 出製品	年間輸出総量
フロートガラス	500～600トン

（出所）ジェトロ調べ

### ■ 現在の流通チャネル

ナシルフロートガラスの工場はガジプール県にあり、インド北東州への輸出は、約5社の輸入業者に同社が直接陸路で輸送している。主な陸港はアカウラ陸港で、トリプラ州の州都アガルタラの輸入業者に引き渡されている。その後、アガルタラから輸入業者が各地にガラス製品を配送しており、アッサム州への輸出実績もある。

### ■ 課題

自社製品のインド標準規格局（BIS）からの認証取得において、インドでの製品テストに遅れが生じており、通常3カ月で完了する手続きが最大1.5年の期間を要している。このテスト手続きの長期化により、輸出プロセスで運用上の遅れと不確実性が生じており、BIS認証要件の理解と迅速な製品承認の確保が困難で、同社がインド市場で事業拡大の上で大きな障害となっている。

### ■ 今後の見通し

ナシルフロートガラスは、インド北東州に工場を設立する予定はないものの、生産能力を拡大し、輸出市場を強化するために、バングラデシュへの投資を歓迎している。

# 6 | BSRM (Bangladesh Steel Re-Rolling Mills)



## インド北東州における同社のビジネス状況（進出）

### ■ 会社概要・事業概要

バングラデシュの著名な鉄鋼製造会社であるBSRMは、2012年頃からインド北東州に鉄筋を輸出し始めた。現在、同社はインドにグレード「500DWR」と「500CWR」の鉄筋を輸出している。これらの製品は、チッタゴン工場（3カ所の圧延工場と、1カ所の溶接工場を含む）で製造されている。BSRMは、高品質の鉄鋼で定評があるが、インド北東州の市場シェアは5%未満に留まり、TATA、JSPL、SRMBなどのインド大手企業と競合している。季節的な需要が輸出を促進しており、ピークは11月～3月である。

### ■ 流通チャネル

BSRMは、アカウラ陸港を通じてトリプラ州アガルタラの倉庫に完成品を直接輸出している。同社は、アガルタラに倉庫を保有しており、3～4社の現地ディーラー・販売業者と協力して商品を流通させている。

### ■ 課題

BSRMのインドへの輸出における主な課題は、インド標準規格局（BIS）からの認証の取得と複雑な更新手続きである。認証は、インドでの販売に不可欠であるが、更新プロセスには、しばしば大幅な遅延が伴い、インドへの頻繁な出張が必要となるため、コストの増加と非効率性が課題となっている。そのため、年間1,000トンの鉄筋を輸出するという目標に対して、実際の輸出量は200～300トンと伸び悩んでいる。

### ■ 今後の見通し

インドの鉄鋼市場での激しい競争を考えると、BSRMはインド北東州の工場への投資は経済的に不可能であると判断している。その代わりに、同社はバングラデシュ国内に直接還元鉄（Sponge Iron）工場を設立し、国内の中小企業に製品を供給できるようにすることで、バングラデシュ国内での事業の多様化に注力する予定であり、国内の鉄鋼産業の強化に役立てたい意向を示している。

インド北東州への 輸出製品	月額輸出総額
鉄筋・鉄筋 (500DWR、500CWR)	目標額：1,000トン 実際の輸出総額：200トン - 300トン

（出所）ジェトロ調べ

## 7 | ナショナルポリマー (NPOLYMER)

### インド北東州における同社のビジネス状況 (進出)

#### ■ 会社概要・事業概要

1987年に「National Polymer」傘下の企業として設立された「NPOLYMER Bangladesh」は、単独重合体（ホモポリマー）業界の大手ブランドであり、PVCパイプや水タンクを専門としている。

同社は、2カ所（ダッカ県トンギ工業地区、マイメンシン県バルカ地区）に工場を持ち、のべ4,000名以上の従業員を雇用している。トンギ工業地区にある工場は、軽工業製品に特化しており、マイメンシン県の工場は、高度なポリマー生産を専門としている。同社は、インド、モルディブ、ブータン、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）、イギリス、スペイン、ポルトガル、フランスなどに輸出しており、世界的な実績を残している。

主な輸出品	月額輸出総額
UPVC（硬質ポリ塩化ビニール）、HDPE（高密度ポリエチレン）、CPVC（塩素化ポリ塩ビ）パイプ、継手、PVC（ポリ塩ビ）ドア、木製プラスチックドア、PVCシート、テフロンテープ、ゴムリング等	7,000～8,000万タカ

（出所）ジェトロ調べ

#### ■ 流通チャネル

ナショナルポリマーは、2016年頃からインド北東州に対して直接輸出するモデルを採用しており、アカウラ陸港やシェオラ陸港などを通じて、北東州のインド輸入業者に自社工場から製品を供給している。また、インドにカントリーマネージャーを雇用し、業務の監督、輸入業者の支援を行なっている。インド北東州におけるナショナルポリマーのPVCパイプの市場シェア（バングラデシュの輸出業者のうち）は20%で、プランなどの大手ブランドと競合している。

#### ■ 課題

ナショナルポリマーは、南アジア自由貿易地域（SAFTA）の恩恵を受けているが、インドの輸入業者にとっては、売上税を含む22%の物品・サービス税（GST）に加え、10%～30%の反ダンピング（不当廉売）関税という高い税負担があり、同社からの商品の調達に負担がかかっている。また、雨期にはパイプの輸出が減少したり、さらに、インド標準規格局（BIS）からの認証の取得に時間がかかったりと、様々な困難を抱えている。

#### ■ 今後の見通し

ナショナルポリマーは、欧州市場での地位を獲得するために、技術の進歩とマイメンシン県工場の品質向上に注力している。また、グループ傘下のShoeniverse Footwearとの提携など、合併事業の機会やコラボレーションも成長戦略の一部を担っている。

#### ■ インドへの投資

ナショナルポリマーは、すでにインド市場に進出しているものの、厳しいビジネス環境のため、インド北東州への投資は当面予定していない。その代わりに、他国での事業拡大の機会を模索している。

## 8 | サjeeb・グループ (Sajeeb Group)



### インド北東州における同社のビジネス状況（進出）

#### ■ 会社概要・事業概要

サjeebグループ (Sajeeb Group) の傘下である「ハシテム・フーズ (Hashem Foods)」は、様々な食品や飲料製品を製造していることで知られるバングラデシュの大手食品メーカーである。

インド北東州への輸出製品

年間輸出総額

ジュース、ドリンク、食品

約54万ドル

(出所) ジェトロ調べ

インド北東州に輸出している主な商品は、マンゴージュース、ライチジュース、ラッシー、トマトソース、菓子類（チャナチュール、ジャルムリ、ラッチシェマイ）などである。マンゴージュースやライチジュースは、インドで最も需要があるため、サjeebブランドの製品（サjeebマンゴージュース、ピューロ、フルーティーナマンゴードリンクなど）は、北東州でも人気ブランドとなっている。同社の従業員は、本社と工場を合わせて約3,000名にのぼり、インドへの総輸出量の約30%が北東州に輸出されている。

#### ■ 流通チャネル

ハシテム・フーズは、インド北東州にある複数の輸入業者を通じてインドに製品を輸出しており、輸出の大半は、アガルタラ陸港を経由して輸出されている。同社の流通ネットワークには、北東州の営業チーム（約50名）が含まれており、製品の宣伝と流通を行っている。サjeeb・グループの工場は、ラジシャヒ県（1カ所）とナラヤンゴンジ県（2カ所）の計3カ所にあり、同工場から、インド北東州の輸入業者に輸出されている。

#### ■ 課題

ハシテム・フーズの抱える課題のうちの一つが、自社製品のインド標準規格局 (BIS) からの認証取得の遅れで、インドでの食品製品の試験に時間を要している。バングラデシュの砂糖価格 (130タカ/kg) はインドの価格 (60タカ/kg) よりも高いため、生産コストが増加し、製品の価格設定に課題が生じている。その他、電力不足や物流の問題も課題として挙げられる。

#### ■ 今後の見通し

ハシテム・フーズは、多くの課題を抱えていながらも、インド北東州に生産施設を設立することを強く望んでいる。インドでの工場建設は、同社の生産コストを削減し、効率を改善し、現地市場によりよく対応するために必要である。また、同社は、インドにおけるバングラデシュの食品・飲料製品の需要の高まりに期待しており、製品の品質向上に向けて引き続き取り組んでいく意向である。

# 9 | ラングスエレクトロニクス (Rangs Electronics)



## インド北東州における同社のビジネス状況（輸出）

### ■ 会社概要・事業概要

ラングスエレクトロニクスは、テレビ、冷蔵庫、音楽プレーヤーなどの家電・電子機器を販売するバングラデシュの大手企業であり、主にシンガポールやマレーシアからも商品を輸入している。また、アフターセールスサポートの一環として、修理のための製品を中国から輸入することも多い。同社の担当者によると、現在、インドには商品を輸出しておらず、将来的にも、輸出は検討していない。

# V. バングラデシュからインド北東州に進出している企業の事例調査



# 1 | RFLプラスチック (RFL Plastics)

## インド北東州における同社のビジネス状況 (進出)

### ■ 会社概要・事業概要

RFLプラスチックは、バングラデシュの大手プラスチック製品製造会社で、家具（椅子、スツール、テーブルなど）、バケツ、バスケット、ベビー用歩行器、ゴミ箱などの様々なプラスチック家庭用品や、建設用プラスチックパイプ、ポリ塩化ビニール（PVC）ドアなど、多様なプラスチック製品を製造している。

また、同社は2008年からインド北東州に商品を輸出しており、同社のインド北東州での市場シェアは、15%～18%を占める。RFLプラスチックの関係者によると、同社は14社のグループ会社から輸出しており、主に家庭用プラスチック製品やパイプは、「RFL Plastics」から輸出し、プラスチックドアは、「Durable Plastics」「Banga Building Materials」などから輸出している。

### ■ 流通チャネル

RFLプラスチックは、バングラデシュに13カ所の工場を持ち、それぞれの工場から、アカウラ陸港、タマビル陸港、シェオラ陸港などのインド北東州に隣接するさまざまな陸港に直接輸送している。インド国内では、インドの輸入業者とつながりのある専任の営業チーム（インド人従業員を含む）が、受注後、輸入業者に商品を配送している。また、同社はインド・トリプラ州に工場を持ち、その工場ではプラスチックパイプを製造し、インド北東州にて販売や流通のサービスも行なっている。

### ■ 課題

インド北東州の消費者は安価なプラスチック製品を求めており、RFLプラスチックにとって、コスト管理が課題となっている。インド企業は自国で原材料を調達できるが、同社は原料を輸入する必要があるため、生産コストが高い。また、幹部のインドのビザ取得も大きな課題であり、ビザの有効期限は短い（1カ月、2カ月、3カ月）上に、インドのビザを取得できないことも多い。そのため、同社役員は、インドを頻繁に訪問して市場の状況、機会、課題を分析することができず、会社の効率性の向上や輸出の見通しの妨げになっている。

### ■ 今後の見通し

RFLプラスチックは、インドのトリプラ州の州都アガルタラに工場を持っており、その工場の生産能力向上を検討している。また、バングラデシュ国内の工場の生産能力も増強したいと考えている。

インド北東州への輸出製品	月額輸出総額
プラスチックドア、パイプ、家庭用品	約60万ドル

(出所) ジェトロ調べ



## 2 | プラン (Habiganj Agro、PRAN Dairy)

### インド北東州における同社のビジネス状況（進出）

#### ■ 会社概要・事業概要

プランは、農産物加工と日用消費財（FMCG）を専門とするバングラデシュの大手財閥企業で、世界各国に製品を輸出し、世界の食品市場に大きく貢献している。

プランは、さまざまな企業名でインド北東州に幅広く食品を輸出しており、「Habiganj Agro」や「PRAN Dairy」は、プラン社の企業名の一部である。同社は、ライチ飲料、フルーツ飲料、ソフトドリンク、ビスケット、ポテトチップス、キャンディー、牛乳、ケーキ、ビスケットなど、さまざまな製品を輸出している。チップス、ビスケット、ライチ飲料はインド北東州で最も有名な食品で、インドへの輸出量の40%を北東州に輸出している。

会社名	月額輸出総額
Habiganj Agro	約12万ドル
PRAN Dairy	約18万ドル

（出所）ジェトロ調べ

#### ■ 流通チャネル

プランは、ホビガンジ県、ガジプール県、ノルシンディ県にある複数の工場食品を生産しており、これらは、Habiganj AgroやPRANの名義で、ジュース製品やライチ飲料などのインドで特に人気のある製品を輸出している。同社の商品は、アカウラ陸港、シェオラ陸港、その他の陸港を経由してインド北東州に輸出され、北東州に

自社の営業チームを通じて、プランの流通施設に運ばれる。さらに、プランは、インドの輸入業者と連携し、直接製品を提供しており、インドのトリプラ州アガルタラにある自社工場では、インド北東州全体に供給するポテトチップスを生産している。

#### ■ 課題

プランは、原材料を輸入する必要があり、生産コストが上がっている。インド北東州の人々は安価な商品を求めており、価格設定に問題が生じている。さらに、インドのビザ取得が困難であるため、同社従業員は、北東州市場のさまざまな課題に対処するために頻繁にインドを訪問することができない。

#### ■ 今後の見通し

プランは、インドへの輸出拡大に取り組んでいる。また、製品需要の高まりに対応するため、バングラデシュとインド双方の生産能力を拡大する計画もある。

## VI. インド・バングラデシュ商工会議所など 関連業界団体や国際機関への調査

# 1 | インド・バングラデシュ商工会議所（IBCCI）

- **インドと北東州の経済活動**：インド・バングラデシュ商工会議所（IBCCI）は、インドとバングラデシュの2国間貿易と経済協力を促進する重要な組織であり、アッサム商工会議所などのさまざまなインドの業界団体と協力して、特にインド北東州での貿易問題に対処し、よりスムーズなビジネス交流を促進している。

## 認識している課題

バングラデシュの輸出業者にとって、インド標準規格局（BIS）認証の取得と更新は大きな課題であり、インドへの商品の輸出に大幅な遅れが生じることが多い。さらに、バングラデシュとインドのどちらの陸港の近くにも製品テストラボがなく、テストのために長距離を移動する必要がある。例えば、北東州からの食品はテストに、西ベンガル州コルカタにサンプルを送る必要があるため、時間がかかっている。同様に、バングラデシュでの製品テストはダッカで行われることが多く、プロセスがさらに遅れている。この問題は、食品などの生鮮食品や、販売までの時間を考慮する必要のあるその他の製品に大きな影響を及ぼしている。

インド側では、輸入業者が高い物品・サービス税（GST）税率に直面しており、商品コストが上昇している。その結果、インド北東州の輸入業者はバングラデシュからの輸入に苦労している。さらに、インドの輸入業者は、現地市場がより安い価格を要求する一方で、より高い価格設定を強いられており、北東州市場での商品販売に困難を感じている。

## 今後の見通し

インド北東州は、インドの他地域から地理的に離れていて移動距離が長く、コストと時間の両方がかかるため、インド内の商品の輸送が難しくなっている。しかしながら、北東州の隣国であるバングラデシュからは、輸送コストが低く、配送時間が短いため、インドの輸入業者にとって費用対効果の高い価値を提供している。さらに、プランの食品、魚類（ヒルシャ）、衣料品など、バングラデシュ製品は、北東州で大きな需要があり、バングラデシュから北東州への輸出を増やす大きなチャンスである。そして、バングラデシュとインド北東州の貿易の可能性を最大限に引き出すには、政府間のコミュニケーションを通じて、高いGST税率、BIS認証の取得の難しさ、長期的なテスト手順などの課題に対処する必要がある。

## 2 | バングラデシュ農産物加工業者協会（BAPA）

- **インドと北東州の経済活動**：バングラデシュ農産物加工業者協会（BAPA）は、バングラデシュからインド北東州への農産物の輸出を促進する上で極めて重要な役割を果たしている。主な輸出品には、加工食品、フルーツジュース、野菜加工品、ケーキ、乳製品、タマネギ、生鮮野菜、魚、米などがある。BAPAは、輸出業者が政府の輸出優遇措置を受ける資格を得るための認証機関（原材料の70%以上がバングラデシュ産であることを保証）である。この認証は、コンプライアンスを促進し、貿易の効率を高めている。また、バングラデシュ政府に政策と価格の問題を解決するよう働きかけており、一時的に禁止されていたコメの輸出を可能にする取り組みも行ってきた。BAPAは、貿易事業に力を入れているものの、インドの業界団体との連携が不足しており、インド市場での影響力は限られている。また、インド北東州は、バングラデシュと地理的に近く、バングラデシュの農産物は価格競争力があるため、バングラデシュの農産物に大きく依存している。バングラデシュの輸出業者にとっては、北東州における安価な製品の需要は、生産コストを抑えた品質維持が課題となっている。

### 認識している課題

インド政府は、農産物にインド標準規格局（BIS）の認証を義務付けているが、時間がかかったり、予測できないことが多い手続きとなっている。毎年更新により取得の不確実性が増し、インドへの輸出のハードルとなっている。さらに、農産物は輸出前にインドで製品テストを受ける必要があり、北東州の場合、サンプルはコルカタに送られることが多く、遅延の原因となっている。また、農産物は傷みやすいため、テスト期間が長くなると保管と保存に問題が生じ、さらに、競争力のある価格で品質を確保することは困難になってしまう。特に、原材料を輸入する輸出業者にとって生産コストが課題となっている。

### 今後の見通し

バングラデシュは、インド北東州との貿易を維持・拡大するために、原材料の現地生産を増やし、高品質を守りながら、コスト効率に重点を置く必要がある。生産能力の向上により、インドなどへの輸出を拡大することができる。また、BAPAは、農業、機械生産、化学処理などの分野で熟練した労働力を育成するために、バングラデシュにトレーニングセンターを設立する計画を立てている。この取り組みは、農産加工部門を強化し、技術を持った人材が輸出業者をサポートし、国内外での長期的な競争力を確保することを目的としている。

### 3 | バングラデシュ・プラスチック製品製造・輸出業者協会 (BPGMEA)

- **インドと北東州の経済活動**：バングラデシュ・プラスチック製品製造・輸出業者協会（BPGMEA）は、プラスチック産業の振興と輸出の促進において重要な役割を果たしている。バングラデシュ政府と製造業者の間の橋渡しとして機能し、業界のニーズに対応している。バングラデシュ政府は、プラスチック製品の輸出業者にキャッシュ・インセンティブを提供しているが、これは10%から6%に低下している。輸出業者がこの資格を得るには、BPGMEAから認定を受ける必要がある。インド・プラスチック製造業者協会（AIPMA）との協力関係を維持し、政策上の問題に対処し、プラスチック製品の輸出業者と輸入業者が直面する課題解決にも取り組んでいる。このパートナーシップは、インド北東州を含むバングラデシュとインド間の貿易障壁を克服するために特に重要である。

#### 認識している課題

プラスチック製品をインドに輸出するには、厳しいインド標準規格局（BIS）の認証要件、高い輸入関税、インドの品質基準の順守など、さまざまなハードルがある。さらに、国境での物流上の問題や、インドのプラスチック業界との競争、プラスチックに対する環境規制の強化などにより、貿易プロセスが複雑化している。これらの要因により、コストが膨らみ、出荷が遅れ、特に北東州のような価格に敏感な市場では、バングラデシュ製品の競争力が低下している。

#### 今後の見通し

インド北東州は、バングラデシュのプラスチック製品に大きな可能性を感じているが、インドのプラスチック市場も急速に成長しており、その価値は、約440億ドルに上る。インド南部チェンナイの石油化学工学・技術中央研究所（CIPET）などの機関に代表されるインドの研究とイノベーションのための強力なインフラは、インドの製造業者に優位性を与えている。バングラデシュには、同様の施設がなく、アキジ・プラスチックス、RFL、NPOLYMERなどの企業は、高品質の生産に優れているものの、将来的な競争力を維持するには、強力な研究開発能力が必要である。この必要性を認識し、BPGMEAがバングラデシュ・プラスチック工学・技術研究所（BIPET）を設立し、学術的なトレーニングと研究の機会を提供している。しかしながら、同研究所は、施設を拡張し、熟練した専門家を育成して、プラスチック産業を発展させるという使命を果たすための資金が不足している。

## 4 | バングラデシュ輸出促進庁（EPB）

- **インドと北東州の経済活動**：バングラデシュ輸出促進庁（EPB）は、商業省傘下の機関で、輸出振興を主目的としており、輸出入に必要な証明書（輸出登録証明書（ERC）、輸入登録証明書（IRC）、原産地証明書（CO）など）を提供する役割も担っている。インド北東州を対象とした特別なインセンティブはないが、輸出業者は通常、製品カテゴリに応じて6%～11%のインセンティブを受け取っている。これらのインセンティブの資格を得るには、バングラデシュ産の原材料を70%以上使用する必要がある。EPBは、北東州の政府と直接の協力関係は構築していないが、バングラデシュとインドの2国間協定を通じて、貿易の促進や、輸出業者が規制要件を満たし、貿易障壁の克服を支援している。

### 認識している課題

北東州への輸出を考える際、道路インフラの整備が不十分であることが大きな課題である。また、インドの輸入業者は、高い税率（計32%。中央政府への物品・サービス税（GST）9%、州政府へのGST9%、売上税4%、反ダンピング関税10%を含む）に悩まされており、インドの輸入業者がバングラデシュから製品を調達しにくい状況となっている。さらに、インドに商品を輸出するためのインド標準規格局（BIS）からの認証取得が大きなハードルとなり、手続きに時間がかかったり、更新の不確実性などが課題となったりしている。電子機器などの特定の製品については、部品と完成品の両方にBIS認証が必要な場合があり、製造業者にとって大きな負担である。また、製品テストをインドで実施することもハードルであり、テスト機関が輸出地域から遠く離れていることが多く、インド北東州からのサンプルはコルカタに送られるため、遅延が発生している。生鮮食品の製品テストの場合、長時間に及ぶ検査プロセスにより、輸出前の製品の保存が保証されず、特に大きな問題となっている。

### 今後の見通し

多くの課題がある一方で、インド北東州は、バングラデシュから距離が近く、輸送コストを抑えられることから、バングラデシュ製品にとって依然として魅力的な市場である。BIS認証の問題や2国間貿易障壁が成長を妨げているものの、外交政策の改善や貿易関係の改善を通じてこれらの問題に対処できれば、バングラデシュから北東州への輸出は大幅に増加する可能性が期待できる。

## 5 | シレット商工会議所（SCCI）

- **インドと北東州の経済活動**：シレット商工会議所は、シレット地域の貿易、産業、経済成長を支援する重要な組織。同会議所は、常にインドの北東州地域との貿易強化を重視し、この地域の戦略的な立地を活用して国境を越えたビジネスチャンスを拡大している。同会議所は、地元企業を代表し、さまざまな分野でその利益を擁護する上で重要な役割を果たしている。

### 認識している課題

シレット県は、インドから砂糖などが非常に安く密輸されているため、バングラデシュの企業が価格競争で正当な利益を得ることが困難になっている。また、インド（特に北東州）からの合法的な輸入品であっても、品質が悪い場合が多い。例えば、バングラデシュ産の茶は、インド北東州から輸入された低品質の茶よりもはるかに優れている。密輸を止め、輸入品の品質を改善することにより、地場企業の成長、バングラデシュ製品の保護、経済の活性化につながる。

### 今後の見通し

シレット県の工業化は、インド北東州への輸出を増やす有望な機会を提供している。北東州は、インド他地域から地理的に遠いため、シレット県からの商品調達は、北東州の企業にとって、便利であると同時に費用対効果も高まる。また、需要の高い商品を安価な輸送費で供給できるため、シレット県に拠点を置く製造業者にとっても大きな利点となっている。シレット県に、さらに多くの製造業が事業を展開することで、各種有望産業（衣料品、プラスチック、家具、食品など）の商品の生産と輸出の能力を高めることが期待できる。このことは、インドとの貿易関係を強化するだけでなく、雇用機会を創出し、シレット県の経済成長を促進する。シレット商工会議所は、シレット県を主要な産業と貿易の中心地にし、地域の長期的な繁栄を促進するための重要なステップと捉えている。

## Ⅶ. バングラデシュの陸港の詳細

# 1 | タマビル陸港 (Tamabil Land Port) (1)

## タマビル陸港に関する情報

- バングラデシュのシレット県にあるタマビル陸港は、特にインドのメガラヤ州との貿易の重要な玄関口。
- 同港では、主に石材、石炭、木材、農産物などの商品を取り扱っている。
- 現在、同港は、アッサム州からのメタノールの輸入も取り扱っている。
- 同港は、砂糖、インド産チョコレート、化粧品などの密輸問題に直面している。
- 適切な消火設備が不足しており、緊急時に使用できる小型ボンベ消火器は22台のみである。
- 不十分なインフラ整備とセキュリティ上の課題が貿易の効率を妨げている。
- 増加する貿易量を管理し、安全性を向上させるには、陸港の近代化が不可欠である。
- これらの問題に対処することは、2国間貿易を促進し、地域経済発展を促進するために重要である。

## バングラデシュのタマビル陸港の位置



(出所) Googleマップを基にジェトロ作成

## 主要輸出入品目

輸入品：石灰石、石炭、岩、メタノール、ブータン産オレンジなど  
 輸出品：食品、家具、プラスチック製品 など

# 1 | タマビル陸港 (Tamabil Land Port) (2)

オフィス



商品のためのスペース



商品のためのスペース



倉庫 (外観)



倉庫 (内観)



計量計



(出所) ジェトロ撮影

## 2 | シェオラ陸港 (Sheola Land Port) (1)

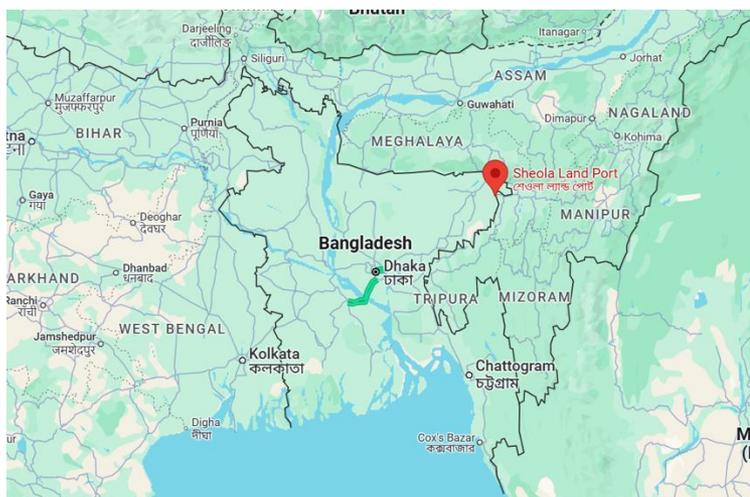
### シェオラ陸港に関する情報

- バングラデシュのシレット県にあるシェオラ陸港は、インドのアッサム州とつながっており、インドとの貿易を促進している。
- 同港は、主に石材、石炭、木材、農産物などの商品を取り扱っている。
- 不十分なインフラ整備、密輸、近代的な設備の欠如などの課題に直面している。
- 港の敷地面積は22.02エーカーで、追加の土地調達が進行中（3.775エーカー）。
- 2023/2024年度の施設利用統計によると、インド車両は4万2,557台、総重量は95万4,319トン、乗客は8,000人を超えている。
- 主要なインフラとして、倉庫、積み替えヤード、トラック駐車場、橋梁などが完備されている。
- 新しい建物には、貿易の効率性を高めることを目的としたオフィスターミナルと旅客ターミナルが含まれる。

### 輸出入品目

輸入品：石灰石、石炭、鉄道用枕木、生姜 等  
 輸出品：プラスチック製品、ジュート製品、ジュース、合成ネット、PVCドア、セメント、ガラス など

### バングラデシュの地図におけるシェオラ陸港の位置



(出所) Googleマップを基にジェトロ作成

### 【統計データ】

会計年度	インド車両量	重さ (MT)	土地料 (TK)	輸出 (MT)	輸出トラック数量	乗客数	
						出国	入国
2023/2024年度	42,557	954,319	6,96,39,789	-	-	8,025	8,087
2024/2025年度	7,297	167,990	1,84,28,232	10,415	1,372	1,800	1,650

(注) 2024年度は10月24日までのデータ。

(出所) 陸港局 (Land Port Authority)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.  
 ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

## 2 | シェオラ陸港 (Sheola Land Port) (2)

オフィスビル



貨物積替所



商品のためのスペース



倉庫



その他の建物



建設現場



(出所) ジェトロ撮影

## 3 | アカウラ陸港 (Akhaura Land Port) (1)

### アカウラ陸港に関する情報

- バングラデシュのブラモンバリア県にあるアカウラ陸港は、特にトリプ  
ラ州、アッサム州、メガラヤ州など、バングラデシュとインド北東州間  
の重要な貿易拠点として機能している。
- 同港は、2010年8月13日に開設され、15エーカーの敷地内に、倉庫、  
積替場、計量計などの主要インフラを備えている。
- 同港で扱う主な製品は、家畜、魚の稚魚、農産物、石炭、木材など。
- 年間取扱能力は、75万トンで、月平均600台のトラックがバングラデ  
シュから商品を輸出し、年間約600台のトラックがインドから商品を輸  
入している。
- バングラデシュ陸港湾局によって管理されている。

### バングラデシュの地図におけるアカウラ陸港の位置



### 輸出入品目

輸入品：米、生姜、玉ねぎ、小  
麦、干し魚、CNG車両用ブレー  
キなど

輸出品：石、セメント、鮮魚、  
干し魚、マンゴージュース、ポ  
テトペレット、綿、フロートガ  
ラス、PVCドア、プラスチック  
家具、電気ケーブル、乳製品、  
菓子類、ティッシュペーパー、  
電気製品、木材、プラスチック  
パイプ、鉄筋 など

バングラデシュ地 域	アカウラ、 ブラモンバリア
インド地域	トリプ ラ州
管轄機関	バングラデシュ陸港湾局
省庁	海運省
港の開港日	2010年8月13日
総土地面積	15エーカー
旅客ターミナル	3.57エーカー
人員	管理職員・クラーク - 7、 警備 - 19、清掃 - 3
インフラ整備	倉庫 - 1、 オープンヤード - 1、 積替ヤード - 1、 計量橋 - 1 (100 MT)、 発電機、管理用建物、 照明 - 3、守衛室 - 2、 国境壁
受入規模	倉庫：800トン、 オープンヤード：4,000トン
年間取扱能力	75万トン (手動)
バングラデシュト ラック (輸出)	平均 600台 (月間)
インドトラック (輸 入)	平均600台 (年間)

# 3 | アカウラ陸港 (Akhaura Land Port) (2)

入口



倉庫前



港前までの道



オフィス



商品のためのスペース



商品のためのスペース



(出所) ジェトロ撮影

## 4 | ボラゴンジ陸港（Bholaganj Land Port）

### ボラゴンジ陸港に関する情報

- ボラゴンジ陸港は、シレット県ボラゴンジ地区とインドのメガラヤ州の国境にあり、現在建設中（輸入のみ運営中）。
- 毎日、約430台のトラックが同港を通過してインドからバングラデシュに入国している。
- ボラゴンジ陸港を通じて輸入のみが行われており、1日あたり約5,000トンの石灰石が港を通じて輸入されている。
- 輸出は行われていない。
- インフラが整備されていないため、輸入された石灰石は、ボラゴンジ陸港付近の空き地に集められる。

### バングラデシュのボラゴンジ陸港の位置地図



### 輸出入品目

輸入品：石灰石  
 輸出品：なし

# 5 | ボラゴンジ陸上港 (Bholaganj Land Port)

オフィス



港湾区域の建設



陸港のインドトラック



道路状況



道路状況



輸入石灰石



(出所) ジェトロ撮影

## Ⅳ. バングラデシュとインド北東州間の貿易概要

# 1 | バングラデシュとインド北東州間の貿易概要（企業別）

会社名	輸出品
Walton	冷蔵庫 - 年間3万台 ファン - 年間10万台
Partex Tissue	輸出を始めたばかりであり、これまでに約60～70トンのティッシュの半製品主体の輸出実績。最近400トンのティッシュの注文を受けている。
Crown Cement	ポルトランドセメント（OPC）：43グレード 年間輸出量：約1万トン
Akij Plastics	プラスチックパイプ、家庭用プラスチック製品 - 年間約20万ドル
Nasir Float Glass Industries	フロートガラス - 年間輸出量 約500～600トン
RFL Plastics	プラスチックドア、パイプ、家庭用品 - 月額輸出額：60万ドル
PRAN	ジュース、チョコレート、ライチ飲料、ビスケット各種菓子類、乳製品など Habiganj Agro - 年間輸出総額 120万ドル Pran Daily - 年間輸出総額 180万ドル
BSRM	鉄筋・鉄筋（500 DWR・500 CWRグレード） 月間輸出数量：200～300トン
NPOLYMER	UPVC（硬質ポリ塩化ビニール）、HDPE（高密度ポリエチレン）、CPVC（塩素化ポリ塩ビ）パイプ、継手、PVC（ポリ塩ビ）ドア、木製プラスチックドア、PVCシート、テフロンテープ、ゴムリング
Sajieeb Group	ジュース、ドリンク、食品 年間輸出総額：約54万ドル

## 2 | バングラデシュとインド北東州間の貿易概要（陸港別）

陸港	輸出入品目
Tamabil Land Port（主に輸入）	輸入品：石灰石、石炭、岩、メタノール、ブータン産オレンジなど 輸出品：食品、家具、プラスチック製品 など
Akhaura Land Port（主に輸出）	輸入品：米、生姜、玉ねぎ、小麦、干し魚、CNG車両用ブレーキなど 輸出品：石、セメント、鮮魚、干し魚、マンゴージュース、ポテトペレット、綿、フロートガラス、PVCドア、プラスチック家具、電気ケーブル、乳製品、菓子類、ティッシュペーパー、電気製品、木材、プラスチックパイプ、鉄筋 など
Sheola Land Port（主に輸入）	輸入品：石灰石、石炭、鉄道用枕木、生姜 等 輸出品：プラスチック製品、ジュート製品、ジュース、合成ネット、PVCドア、セメント、ガラス など
Bholaganj Land Port（輸入のみ）	輸入品：石灰石 輸出品：なし

（出所）ジェトロ調べ

## IX. バングラデシュからインドへの 輸出における課題と今後の見通し

# 1 | 主な課題

## 1. インド標準規格局（BIS）認証制度

バングラデシュの輸出業者は、インドに商品を輸出するために「インド標準規格局（BIS）」の認証を取得する必要がある。しかし、この認証取得は、手続きに時間（多くの場合1～2年）がかかったり、高額な費用（約300万～400万タカ）が発生したりするため、認証取得が困難な状況になっている。また、BIS認証は毎年更新する必要があり、一度認証された製品が更新の対象となる保証はない。そのため、バングラデシュからインド北東州およびその他のインド地域に対する製品の輸出は、不透明な状況となっている。

## 2. インド衛生証明書の取得

インド政府は、水産物・水産加工品の輸入に対して、輸入前に衛生証明書の取得を義務付けている。しかしながら、検査機関は通常、バングラデシュの陸路から遠く離れているため、大幅な遅延が発生する。たとえば、バングラデシュからインド北東州に輸出する水産物・水産加工品は、バングラデシュの西側にあるコルカタの検査機関に送られることが多い。検査結果が出るまでに数か月かかることがあり、その間に陸港で食品が腐ることもある。

## 3. 生産コストの管理

インド北東州の消費者は、安価な製品を求めており、バングラデシュの輸出業者にとって、コスト管理は重大な課題である。インドの地場企業は、原材料を国内調達することが一般的であるのに対し、バングラデシュの企業は、原材料を輸入する必要があるため生産コストが高く、競争力のある価格での販売が難しい。そのため、バングラデシュの輸出業者にとって、インド北東州で安価な商品を発売することは、難易度が高い。

## 4. インドのビザ取得

バングラデシュ人にとって、インドビザの取得は難しく、また、発行されるビザの有効期間は、1カ月、2カ月、3カ月と非常に短い。そのため、バングラデシュ企業の従業員が、インドを頻繁に訪問して、市場の状況、機会、課題の分析を行うことが困難である。

## 5. インドの物品・サービス税（GST）引き上げ

バングラデシュの輸出業者は、インドに商品を輸出する際に、南アジア自由貿易地域（SAFTA）の恩恵を受けることが多い。しかしながら、インドの輸入業者は、22%の税（インド政府：9%、州政府：9%、売上税：4%）を支払う必要がある。さらに、インドの輸入業者は、特定の製品に対して、10%～30%の追加関税を支払う必要があることも多く、インドの輸入業者は、バングラデシュからの製品の調達を断念することもある。

## 6. 陸港のインフラ整備

バングラデシュの陸港は、ボラゴンジ（Bhologanj）やシェオラ（Sheola）などの一部の港は建設中であり、大規模な輸出入活動に対応できていない。また、タマビル（Tamabil）やアカウラ（Akhaura）などの稼働している陸港でも、依然として重要な施設（計量計、消防システム、生鮮品の取り扱いに関する適切な設備など）が不足している。さらに、陸港付近の道路、特にインド側の道路は状態が悪く、商品をスムーズに輸送することが非常に困難である。

## 2 | 今後の展望

- インド標準規格局（BIS）認証問題や物品・サービス税（GST）などの課題が軽減されれば、バングラデシュからインド北東州への輸出には、大きな可能性がある。バングラデシュ企業がインド北東州での事業を展開する上で重要な要素は、「輸送コスト」「文化的類似性」「インド北東州での拠点設立」の3点である。

### ■ 競争力のある輸送コスト

インド北東州は、インド他地域から遠く離れている一方で、バングラデシュに隣接しているため、インドの輸入業者は、インド他地域よりも安い輸送費でバングラデシュから商品を調達できる。したがって、北東州で商品を調達するには、物流の観点から、バングラデシュでの調達が適している。

### ■ 文化的類似性とバングラデシュ製品の受容

バングラデシュとインド北東州は、文化的類似性があり、例えば、同じ言語を使用し、似たような食習慣を持ち、友好的な関係を築いている。そのため、2つの地域では消費行動も似ており、バングラデシュ製品は、インド北東州で広く受け入れられている。

### ■ インド北東州での製造工場の設立や輸出の見通し

シレット商工会議所（SCCI）と陸港湾局は、インド北東州への輸出を増やすためには、シレット県での工場設立が理想的であると考えている。シレット県は、バングラデシュ製品の需要が高いインド北東州に近く、輸送コストが大幅に削減され、バングラデシュ企業とインドの輸入業者のどちらにも利益をもたらすと期待される。また、シレット県では、衣料品、電子機器、セメント、プラスチック製品、手工芸品、医薬品などの産業が発展する可能性があり、バングラデシュ政府は、外国投資と合弁事業がこれらの産業をさらに支援し、十分な商品供給を確保できると示唆している。さらに、バングラデシュの国内需要への対応も期待されている。

# X. バングラデシュとインドを含む地域貿易協定

# 1 | 地域貿易協定

## ■ 南アジア自由貿易地域（SAFTA）枠組み協定

2006年に南アジア地域協力連合（SAARC）諸国（バングラデシュ、アフガニスタン、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ）の間で設立された地域貿易協定。関税と貿易障壁を削減し、経済統合を促進し、持続可能な開発のための相互協力を強化することで、地域内貿易を促進することを目的としている。

## ■ アジア太平洋貿易協定（APTA）

1975年に設立され、アジア太平洋地域で最も古い特惠貿易協定である。加盟国は、バングラデシュ、中国、インド、ラオス、モンゴル、韓国、スリランカで、関税譲許を通じて地域貿易を促進し、加盟国間の経済協力と統合を強化することを目的としている。

## ■ ベンガル湾多分野技術経済協カイニシアチブ（BIMSTEC）

1997年に、バングラデシュ、インド、ミャンマー、スリランカ、タイ、ネパール、ブータンによって設立され、貿易、エネルギー、技術、輸送、安全保障などの分野での協力を強化し、経済成長と地域の連携を促進することを目的としている。

## ■ 南アジア特惠貿易協定（SAPTA）

1995年にSAARC加盟国（バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ）で設立された協定。同協定は、関税譲許と貿易の円滑化を通じて地域間貿易を促進し、南アジア内でのより深い経済統合の基盤を築くことを目的としている。

# レポートをご覧いただいた後、 アンケートにご協力ください。

(所要時間：約1分)

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20240049>



## レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部アジア大洋州課



03-3582-5179



ORF@jetro.go.jp



〒107-6006

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

### ■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載